

2025 活動報告

ジャパンデータリポジトリ ネットワーク

(JDARN)推進部会



JDARNの設立目的

よりよい研究データ
管理と運営がわかる
専門家集団を目指し
ています。



現在のメンバーは約25名

1. 国内にあるデータリポジトリの信頼性を国際的に期待されている水準に高める。
2. データリポジトリへの要求の多様化に対し、共通の課題を議論する。
3. データリポジトリコミュニティを作る。

これまでの主な活動

1. **2017年10月:**
「国内の分野リポジトリ関係者のネットワーク構築」小委員会として設立
2. **2017年12月:**
CoreTrustSeal(CTS)を使ったセルフアセスメントを試みるワークショップを開催
3. **2018年2月～9月:**
CTSの日本における適用可能性を議論
⇒データリポジトリに要求される項目を「アイテム」としてCTSから抽出
4. **2018年10月:**
ジャパンデータリポジトリネットワーク(JDARN)小委員会として再始動
5. **2018年10月～2019年3月:**
上記「アイテム」を基に「研究データリポジトリ整備・運用ガイドライン」として必要な内容を整理・議論
6. **2019年4月～2021年1月:**
リポジトリ関連の勉強会やミーティング等
7. **2021年2月～**
ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会(JDARN)として活動
8. **2022年11月:**
各分野のリポジトリを同一の基準でまとめたリポジトリリスト試案を公開

これまでに作成したJDARNの成果物は、
https://japanlinkcenter.org/rduf/about/index.html#s004_0
 から公開しています。



研究データリポジトリ整備・運用ガイドライン

JDARNで作成した原案が採用され、**2019年3月**に内閣府「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスの推進に関する検討会」の文書として発行

- **2018年10月**：上記検討会（第7回）で途中経過を発表
<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kokusaiopen/7kai/7kai.html>
- **2018年12月**：内閣府と合同でワークショップを開催

研究データリポジトリ整備・運用ガイドライン

平成31年3月29日
国際的動向を踏まえたオープンサイエンスの
推進に関する検討会

1. 研究データの保存・公開とデータリポジトリの整備・運用
2. 研究データリポジトリの定義及び役割
3. FAIR原則
4. 信頼できる研究データリポジトリの整備・運用に関する要件

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kokusaiopen/guideline.pdf>



リポジトリリスト試案

項目名	必須/任意	例: GlycoPOST	例: LSDBArchive	例: MDR	例: Nagoya repository	地球環境データベース (GED)
ID	必須	undefined	undefined	undefined	undefined	undefined
リポジトリ名	必須	GlycoPOST	カイブ	Materials Data Repository	学術機関リポジトリ	地球環境データベース
リポジトリ名(略称等)	任意	GlycoPOST	LSDB Archive	MDR	Nagoya repository	GED
リポジトリurl	必須	https://glycopost.glycosmos.org/	https://dbarchive.biosciencedbc.jp/index.html	https://mdr.nims.go.jp/	https://nagoya.repo.nii.ac.jp/?page=1&size=20&sort=custom_sort&search_type=0&q=re3data	https://db.cger.nies.go.jp/ged/ja/index.html
リポジトリ識別子名	任意		re3data	re3data		
リポジトリ識別子値	任意		http://doi.org/10.17616/R3894W	http://doi.org/10.17616/R31NJMWR		
ミッション・概要	必須	質量分析のメタデータと生データを登録	カイブは、国内のライフサイエンス研究者が生み出したデータセットをわが国の公共財としてまとめて長期間安定に維持保管し、データ説明（メタデータ）を統一して検索を容易にすると共に、利用	材料研究データや文献等を保存・公開しているデータリポジトリです。	大学の研究者、大学院生等による研究論文・学位論文・学会発表論文・教材などを収集し、インターネットにより無償公開していく仕組みです。 https://nagoya.repo.nii.ac.jp/wig	国立環境開拓研究機構（NIES）地球システム領域（ESD）地球環境研究センター（CGER）では、地球温暖化をはじめとする地球環境問題に関する自然科学・社会科学分野の研究で得られたデータや成果を収集・整備し、公開する基盤データ
ミッションurl	任意		https://dbarchive.biosciencedbc.jp/contents/about/about.html	https://dice.nims.go.jp/services/MDR/	https://db.cger.nies.go.jp/ged/ja/get/uploaded/yoko_20210312/re.pdf/Root%20Index.html	https://db.cger.nies.go.jp/ged/ja/about.html
運営計画url	任意		https://dbarchive.biosciencedbc.jp/us/			
リポジトリタイプ	必須	分野別リポジトリ	分野別リポジトリ	ジトリ	機関リポジトリ	分野別リポジトリ
リポジトリサイズと確認日	任意	206 projects, 1.6TB 2022/7/14	153データセット、約150TB	2344件	て件数を書くべき？ちなみに	2022/8/19
データ最終更新日	任意			2022/10/3	2022/07/15	2022/8/5
リスト登録日	必須	2022/7/14	2022/7/12		2022/7/15	2022/8/19
リスト最終更新日	必須	2022/7/14	2022/10/25		2022/7/15	2022/8/19
言語	必須	英語	日本語/英語	英語	日本語/英語	日本語/英語
リポジトリ公開日	任意	記載不明		2009/3/18	2020/06/15	2015/03/18
稼働状況	必須	稼働中	稼働中	稼働中	稼働中	稼働中
稼働状況確認日	必須	2022/7/14	2022/10/25	2022/07/15	2022/07/15	2022/8/19
リポジトリ分野	必須	生命科学	生命科学分野	材料科学分野	全般？？	地球環境科学
分野キーワード	任意	糖鎖、質量分析	生命科学, ライフサイエンス	材料、マテリアル、物理、化学		地球環境、気候変動、温室効果ガス、温暖化



2025年度の活動

- 他の部会・小委員会との連携、イベントへの参加が中心
 - RDUF
 - データ共有・公開制度検討部会
 - PIDユースケース検討小委員会
 - 政府メタデータ共通項目小委員会
 - JOSS 2025



2026年に向けて

- ・ データに関する制度については、RDUFで議論が進んでいるように思われる
- ・ 技術的な課題、特に生成AIの利活用についての議論はまだのように思われるので、この辺りを中心に議論したい
 - ・ データの生成そのものにAIを利用する
 - ・ データの分類・キュレーションにAIを利用する
 - ・ AIのHow toを知りたい一方、権利・倫理的な懸念も心配



仲間を募集しています

- JDARNでは各分野のリポジトリ関係者が集まって様々な議論を重ねています。
 - 地球観測
 - 環境
 - 情報
 - 物質・材料
 - 生命科学
 - 海洋
 - 情報通信
 - 地質
 - 人文学
- 研究データリポジトリの運営に关心があれば、ぜひJDARNに参加しませんか。
 - JDARNに参加するには、まず下記フォームからRDUFに入会を申し込んでください。
https://form.jst.go.jp/enquetes/jalc_rduf_admission
 - 既にRDUF入会済の方は、下記アドレスまでご連絡ください。
rd-repository@mr.jst.go.jp

